

学習障害児の漢字読み学習における自製画を用いた支援の効果

—サンプルマッチング課題と RAN 課題を通して—

○塚田 睦実¹ 中野 佑香² 古里 恵³ 福山 利克⁴ 小池 敏英⁵ 雲井 未欽⁶

(¹鹿屋市立鹿屋小学校) (²鹿児島大学教育学研究科) (³PARC にしのみや) (⁴鹿児島県こども総合療育センター) (⁵尚絅学院大学) (⁶鹿児島大学)

KEY WORDS: 学習障害, 漢字単語, 自製画, マッチング課題, RAN 課題

【目的】 学習障害のある児童では、新出漢字の読みの習得や流暢な読みの遂行に困難を伴う場合が多い。これは語の漢字表記と意味的表象との対応に弱さがあるためと考えられ、イラストや写真等を用いて意味表象のイメージを明確にした学習支援の重要性が従来指摘されてきた。しかし学習単語に対応した画像をその都度用意することは容易でなく、対象児によってイメージの内容が異なる場合も予想される。近年、対象児自身による描画（自製画）を用いた学習が検討され、小学生における教科の内容理解への効果（Meter ら、2006）や、ディスレクシア児における文章の内容把握への効果（Wang ら、2001）が報告された。これを漢字単語の読み学習に適用することで、最適な意味表象とその視覚的手掛かりを個別に設定でき、学習支援の効果が高いことが予想される。そこで本研究では、自製画と漢字単語のサンプルマッチング学習と、自製画による RAN（急速自動命名）課題を指導し、効果を検討する。これにより、読みの習得の過程と定着に及ぼす自製画の利用の効果について考察することを、本研究の目的とした。なお、学校の授業場面においては、内容を理解・習得したり学習活動に参加したりする上で、読みの習得と使用の両方を速やかに獲得していく必要がある。この点から本研究では、習得の遅れた漢字ではなく、当該学年の新出漢字について指導することとした。

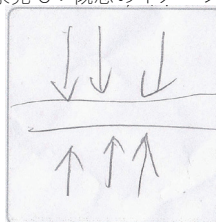
【方法】 対象児：医療機関において読みの学習障害と診断された児童 8 名（小学校 3 年生～5 年生）を対象とした。**手続き：** 1 回約 30 分の個別学習支援を 10 回実施した。指導単語は毎回国語科の教科書から 6 語を選定した。マッチング課題は、イラストに基づき読み仮名（ひらがな表記）を選択するものと、漢字単語からイラストを選択するものの 2 種とし、それぞれ 1 分間測りながら 1～2 セット実施した。RAN 課題は 2 種の条件（イラストのみ、イラストと単語の併記）でいずれも無作為に 4 語を並べて呈示し、左から順にできるだけ早く言うように教示した。第 1 回、5 回、9 回はコントロール条件として既製画による指導とした。他の回は対象児に単語の意

味を自分なりのイメージで描いてもらい（図 1）、教材に反映させた。指導の効果測定は、漢字単語の RAN 課題で音読を評価した。指導直後のテストおよび保持テスト（1 週間と 3 週間後）を行った。**分析：** マッチング課題と RAN 課題ともに正答率の変化を分析した。本研究における参加者への協力依頼等の手続きは医療機関を通じて行い、同意を得た。

【結果・考察】 図 2 はマッチング課題での正答率の変化（学習曲線）を対象児 B について例示した。正答率は連続する 6 試行から算出した。イラストから平仮名（左）、漢字からイラスト（右）ともにコントロールでは試行の初期の正答率が低く反復に伴って増加したのに対し、指導 1 から 3 では試行の初期から高い正答率を示した。他の児童については、経過に相違が見られるものの、自製画を用いた場合の正答率はコントロールと比べて高い特徴を認めた。図 3 は指導効果（漢字単語の RAN の正答率）を、自製画条件と既製画条件で重ね書きしたものである。対象児 A、B、E、F、H の 5 名は、既製画と自製画ともに指導直後と 1 週間後の正答率が類似かあるいは 1 週間後の正答率が高かった。3 週間後の正答率も同様であった。このことから本研究の対象児の多くは指導による学習の定着が良好であったと判断された。自製画と既製画を比較すると、対象児 A と B の 1 週間後の正答率は自製画の方が高かった。対象児 E と F は両条件の正答率が高く、大きな差はなかった。それより、本研究の対象児において漢字読み学習における自製画の使用は、既製画と同等またはそれ以上の効果を有したと考えられた。対象児 H は自製画の正答率が既製画より低かった。この児童ではイラストを描くことが苦手であったり、既製画には色がついていたため記憶に残りやすかったりしたことが推測された。対象児 C は、マッチング課題で自製画条件の正答率に幅があったのに対し、既製画条件ではほとんどの試行において正答率が高かった。そのため、学習効果としては既製画の正答率の方が高くなったと考えられた。他の対象児は、マッチング課題における自製画の正答率が早い段階で 100% に達していた。このことから、自製画のほうが漢字の習得が早く、漢字の保持の観点から漢字を思い出しやすいことが考えられた。以上のことから、自製画によるマッチング課題と RAN 課題の組み合わせは、漢字読みの習得と保持への効果が高い可能性が示唆された。一方、指導後の正答率が低下した対象児も存在し、今後さらに検討を行う必要があると思われた。

(TSUKADA Mutsumi, NAKANO Yuuka, FURUSATO Megumi, FUKUYAMA Toshikatsu, KOIKE Toshihide, KUMOI Miyoshi)
本研究は JSPS 科研費 19K02957 の助成を受けたものです。

対象児 C：概念のイメージ



対象児 E：圧力鍋の絵

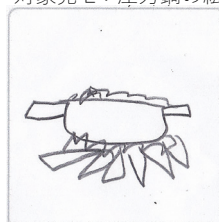
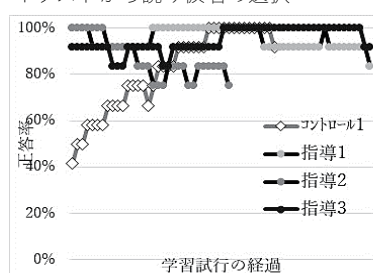


図 1 単語「圧力」の自製画の例

イラストから読み仮名の選択



漢字単語からイラストの選択



図 2 マッチング課題における学習曲線の例（対象児 B）

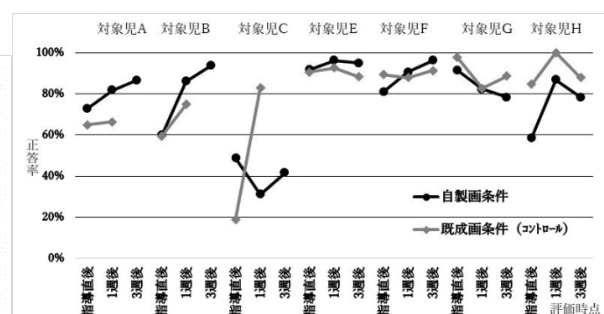


図 3 直後テストと保持テストでの音読正答率